

平成30年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備考	
第一項第一、二号	定期演奏会	24回	38,958人	【会員数】 Aシリーズ 1,091人 東京文化会館8回 Bシリーズ 1,301人 サントリーホール8回 Cシリーズ 978人 東京芸術劇場8回	
	プロムナードコンサート	5回	8,169人	【会員数】 1,009人 サントリーホール 5回	
	特別演奏会	10回	16,172人	<都響スペシャル> サントリーホール 4回 <第九> 東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホール 各1回 <その他> 八王子シリーズ 1回 福岡シンフォニーホール（アクロス福岡） 1回 愛知県芸術劇場コンサートホール 1回	
	小計	39回	63,299人		
	TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]	2回	3,526人	共催：東京都、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、豊島区	
	避難体験コンサート	1回	620人	共催：東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）	
	都響・調布シリーズ	1回	1,235人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	
	ボクとわたしとオーケストラ	2回	3,365人	共催：株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FMいわき）、NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオス	
	ふれあいコンサート	1回	1,114人	共催：東京都、公益財団法人日本チャリティ協会	
	小計	7回	9,860人		
依頼公演	29回	39,641人	地方公共団体、文化振興団体等		
第一項第二号	音楽鑑賞教室	57回	52,355人	主催：各区市教育委員会等 都内22区市、他	
	マエストロ・ピジット	1回	80人		
	音楽アーティスト交流教室	(150回)	—	会場：台東区立及び豊島区立小学校 下記 注1 参照	
第一項第二、三号	小規模演奏会	108回	19,564人		
	公開ゲネプロ	5回	843人		
	放送・録音	CD、DVD用録音等	4回 [3回]	—	[] 内は同時録音
		CD、DVD制作	0回 [1回]	—	[] 内は同時録音、過年度録音等
		放送用録音、放送	0回 [16回]	—	[] 内は同時録音
		小計	4回 [20回]	—	下記 注2 参照
合計	250回	185,642人			

注1 音楽アーティスト交流教室は、台東区立及び豊島区立の小学校を都響OB楽員等が訪問するクリニック事業であり、()内はクリニックの回数で、外書きである。

注2 放送・録音の [] 内は自主公演等の同時録音あるいは過年度録音等であり、外書である。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
- 二 青少年のための演奏事業
- 三 その他の音楽芸術普及事業
- 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業

3 第1項及び第2項の事業は東京都において行うものとする。

1 事業の概要

平成30年4月1日より3年の任期でアラン・ギルバートが首席客演指揮者に就任し、音楽監督：大野和士、終身名誉指揮者：小泉和裕、桂冠指揮者：エリアフ・インバルとともに、楽員との一層強固なパートナーシップのもと、意欲的なプログラムを披露した。また都響指揮者陣のほかにも国内外から指揮者・ソリストを迎え、高い芸術性を追求した。

楽団が主催する自主公演としては、楽団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会はソフレ公演のAシリーズ（東京文化会館）・Bシリーズ（サントリーホール）、マチネ公演のCシリーズ（東京芸術劇場）の計24回を実施（各シリーズ全8回）。親しみやすいプログラムを中心として幅広い層に親しまれているプロムナードコンサートを5回、そのほか、特別演奏会として毎年恒例の「第九」公演や福岡・名古屋での公演などを10回実施し、合計39回、約6.3万人を動員した。

共催・提携公演は、東京都とともに「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」を初開催したほか、公益財団法人東京都歴史文化財団との共催実施の「避難体験コンサート」、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携による「都響・調布シリーズ」公演、東京都、公益財団法人日本チャリティ協会とともに実施した「障害者のためのふれあいコンサート」や、平成23年度より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」公演（いわき市）を2回開催、合計7公演を実施した。

地方公共団体や文化振興団体などからの依頼公演は、東京・春・音楽祭やドラゴンクエスト公演、プレミアムコンサート、オペラ公演など合計29回を実施した。

青少年を対象とした音楽活動としては、音楽鑑賞教室を都内22区市などで57回、音楽監督大野和士によるマエストロ・ビジットを1回実施し、オーケストラ鑑賞の機会や演奏家との直接のふれあいを通じて、約5万人の子供たちに音楽の持つ魅力を伝えた。

小規模演奏会は、都内の病院や福祉施設を中心に、JR上野駅構内や東京都議会、多摩地域や島しょ地域などでも演奏を行ったほか、東北の被災地での演奏を継続的に実施した。また、新たに、「サラダ音楽祭」でのミニコンサートや、東京都美術館の展示会とのコラボレーション企画の演奏会を行うなど、合計108回実施した。

さらに、テレビ放送やラジオ放送、インターネット配信等のための収録やゲーム「Fate/Grand Order」音楽のCD録音など多岐にわたる活動を繰り広げた。

2 事業の内容

平成 30 年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間 250 回にわたる演奏会を実施した。

I 公開演奏（定款第 4 条第 1 項第 1、2 号）

(1) 自主公演

ア 定期演奏会（24 回）

当団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会は、1965 年の楽団創立以来、創造性に満ちた幅広い内容の企画による演奏会開催を目標とし、日本の音楽創造活動の牽引力となるべく、高い水準の先駆的な活動を継続している。

A シリーズを文化会館で 8 回、B シリーズをサントリーホールで 8 回、C シリーズを東京芸術劇場で 8 回（うち 3 回は平日昼開催）、併せて 24 回開催した。

シーズンの開幕を飾る第 852 回、第 853 回では、音楽監督大野和士が登壇し、都響の最重要レパートリーであるマーラーの交響曲第 3 番を指揮した。そのほか大野指揮の公演では、マーラーの《大地の歌》を規範として作曲したとされるツェムリンスキーの抒情交響曲（第 864 回）や、交響曲第 3 番にも一部が転用されているマーラー作曲の《少年の不思議な角笛》（第 872 回）を採り上げ、オペラ指揮者としても評価を得ている大野にふさわしく、声楽を伴う作品をレパートリーの中心に据えながら、シーズンを通して「マーラーとその周辺」というテーマに貫かれたプログラムで作品の魅力を伝えた。また、第 862 回では、都響に多くのフランス音楽のレパートリーをもたらした永久名誉指揮者ジャン・フルネの没後 10 年を記念して、大野の指揮のもと、フルネゆかりのフランス音楽を採り上げた。

4 月より首席客演指揮者に就任したアラン・ギルバートは、3 つの演目を携えて定期演奏会に登壇した。第 859 回ではドヴォルザークの交響曲第 9 番《新世界より》に加え、名作ミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』から生まれたバーンスタインの《シンフォニック・ダンス》、ガーシュウィンによるシンフォニック・ジャズ《パリのアメリカ人》といった「アメリカン・プログラム」を指揮し、エンターテナーぶりを発揮。第 868 回ではストラヴィンスキー作曲の《春の祭典》を採り上げ、高い演奏技術が求められる本作品で存分に力量を示した。第 869 回、第 870 回では、R. シュトラウス作曲の交響詩《ドン・キホーテ》、ビゼー作曲『カルメン組曲』より（アラン・ギルバート・セレクション）で、ソロパートが満載のこれら作品から、生き生きとしたサウンドを引き出した。

終身名誉指揮者小泉和裕は、第 856 回でドヴォルザーク、グラズノフ作曲のストラブ音楽の名品を指揮した。また、2009 年エリザベート王妃国際コンクールの勝者レイ・チェンを独奏に迎えた第 865 回、第 866 回では、ブラームス 2 作品の魅力を伝えた。

桂冠指揮者エリアフ・インバルは、ショスタコーヴィチの交響曲第 5 番（第 874 回）、チャイコフスキーの交響曲第 5 番（第 875 回）を指揮し、過去の共演でも

高い評価を受けた2作品だけに、いずれも90%を超える入場率を達成した。

現代作品を積極的に採り上げ、聴衆の拡大を図ったことも特筆すべき成果である。コリリアーノ80歳を記念して《ミスター・タンブリンマンーボブ・ディランの7つの詩》を下野竜也の指揮で日本初演した第855回は、ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したこともあり、クラシック音楽界に止まらず社会的な注目を集めた。大野和士指揮の第863回公演では、タバア・ツィンマーマンとアントワン・タメスティを独奏に迎え、二人のために書かれたマントヴァーニの近作、「2つのヴィオラと管弦楽のための協奏曲」の日本初演を果たした。20世紀を彩った作曲家ながら演奏機会の稀有な矢代秋雄（第858回／オレグ・カエターニ指揮）、ルトスワフスキ（第860回／アントニ・ヴィト指揮）、ワイル（第867回／ミヒャエル・ザンデルリンク指揮）の名作を採り上げたことでも関心を集めた。

一方、オーロラ管弦楽団の創始者兼首席指揮者であり、ハーグ・レジデンティ管首席指揮者のニコラス・コロシ（1983年生まれ）の日本デビューとなった第873回では、ストラヴィンスキーのバレエ組曲「プルチネルラ」、「火の鳥」のほか、キット・アームストロング（1992年生まれ）の独奏によるハイドンのピアノ協奏曲といった古典・新古典作品に、才気煥発な新世代の演奏家の感性が新たな光を照らした。

イ プロムナードコンサート（5回）

プロムナードコンサートは、おなじみの名曲や親しみやすい作品を第一線で活躍する指揮者やソリストの演奏で聴いていただき、休日マチネコンサートとして開催しており、オーケストラ音楽の一層の浸透を図っている。本年度はサントリーホールで計5回実施し、クラシック音楽入門者にも楽しめるポピュラーな名曲をプログラムの中心としながら、若い演奏家や初共演の指揮者を迎える機会となった。

シリーズ初回のNo.377は、フィンランド出身で北欧の名門楽団で活躍の場を広げるクラウス・マケラ（1996年生まれ）が、シベリウス作品を携えて鮮烈な日本デビューを果たした。

オレグ・カエターニ指揮のNo.378では、1998年クララ・ハスキル国際ピアノコンクールで優勝した藤田真央（1998年生まれ）の独奏によるチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番や、近年日本でも演奏頻度が高まっているカリンニコフの交響曲第1番といった「ロシア・プログラム」をお届けした。

No.379は、モーツァルトの解釈で称賛を受けるハンス・グラーフと初共演の機会となり、モーツァルト、ドヴォルザークの名曲を採り上げた。サン＝サーンスのピアノ協奏曲では、独奏のカティア・スカナヴィが透徹した技巧と叙情を披露した。

No.380では、ドレスデン・フィル首席指揮者ミヒャエル・ザンデルリンクが、ウェーバー、ヒンデミット、ベートーヴェン作品といったドイツ音楽を周到に組み合わせたプログラムを指揮した。

終身名誉指揮者小泉和裕指揮によるNo.381では、チャイコフスキーの交響曲第1番《冬の日の幻想》と、川久保賜紀の独奏によるシベリウスのヴァイオリン協奏曲が季節を彩った。

ウ 特別演奏会（10回）

① 都響スペシャル（4回）

特別演奏会ではシリーズ演奏会（定期演奏会、プロムナードコンサート）の枠にはまらない企画性に富んだプログラムを組むことにより、幅広い聴衆層の獲得を目指し、オーケストラ音楽の浸透を図っている。

平成30年度は、7月にアラン・ギルバートが「首席客演指揮者就任披露公演」として2公演を指揮した。都響のコアレパートリーであるマーラーの交響曲第1番《巨人》を「クービク新校訂全集版／2014年」で演奏し、都響のマーラー演奏史に新たな1ページを記した。

12月には同じくアラン・ギルバートの指揮で、第868回定期演奏会と連続して同プログラムのコンサートをサントリーホールで開催した。

平成31年3月には、桂冠指揮者エリアフ・インバルがブルックナーの交響曲第8番を「第2稿・1890年版」で指揮した。これまでインバルはブルックナーの演奏においては原則としてオリジナル稿を用いていることから、「第2稿・1890年版」を指揮するとあって大きな話題を呼んだ。

② 第九公演（3回）

年末恒例の「第九」公演は、終身名誉指揮者小泉和裕の指揮により、東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホールにて各1回実施した。

③ その他（3回）

多摩地域での演奏活動の活性化を意図した「都響・八王子シリーズ」では、大友直人の指揮のもと聴きごたえのある名曲プログラムをお届けした。

平成28年度に続き3回目の開催となる「福岡特別公演」、「名古屋特別公演」（3月）は、桂冠指揮者エリアフ・インバルがショスタコーヴィチの交響曲第5番をメインとしたプログラムで圧倒的なサウンドを響かせた。

（2）共催・提携公演（7回）

ア TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]（2回）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成を図るため、2020年に向けて芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核プログラムとして、東京都とともに、東京芸術劇場及び豊島区と連携し、「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」を9月に初開催した。

この「サラダ音楽祭」では、サラダ=SaLaDの由来である「Sing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！」をコンセプトに、赤ちゃんから大人まで誰もが参加して一緒に楽しめるオーケストラコンサートやワークショップなど、様々なプログラムを実施した。

オーケストラコンサートは、0歳児から入場可能な「OK!オーケストラ」と音楽祭のメインコンサート《プルミエ・ガラ》の2公演を行った。メインコンサートの《プルミエ・ガラ》は、小池知事の指揮によるオリンピック・マーチで華やかに幕を開け、オルフの《カルミナ・ブラーナ》では、近藤良平率いる「コンドルズ」によるダンスとのコラボレーションを実施した。

オーケストラコンサート以外にも、「歌」や「ダンス」、「楽器体験」、「楽器

作り」のワークショップや、ヤマハ株式会社の技術協力による「音楽と AI」のワークショップを開催したほか、街なかで気軽に音楽を楽しむことができる弦楽四重奏や声楽アンサンブル等の無料ミニコンサートなど、多彩なプログラムを展開した。

各プログラムは、東京芸術劇場と池袋周辺の公園や商業施設等で実施し、1日で延べ8,000人を超える方々に音楽の楽しさを体感していただいた。

イ 避難体験コンサート（1回）

公益財団法人東京都歴史文化財団との共催事業として、演奏中に災害が発生したことを想定した来場者参加型の避難体験コンサートを、5月に東京文化会館で開催した。来場者には演奏をお楽しみいただく一方で、災害発生時のホールでの避難行動を体験していただいた。また、公演運営を担う職員らにとっても、災害発生時の連絡体制や、来場者および出演者の避難経路を確認する機会となった。

ウ 都響・調布シリーズ（1回）

多摩地域での演奏活動の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携を図り地域との繋がりを深めている。平成13年度から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施しており、本年度で20回を迎えた。藤岡幸夫の指揮で、9月に調布市グリーンホールにて開催した。

エ ボクとわたしとオーケストラ（2回）

平成23年度より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」公演（いわき市）は、平成28年度から、株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FM いわき）、NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオスとの共催として実施（午前の部：小学生、午後の部：中学生の計2回）しており、これまでに招待できた児童・生徒数は延べ2万5千人を超えた。

オ ふれあいコンサート（1回）

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度で35回を迎えた。

（3）依頼公演（29回）

ア 都内

東京・春・音楽祭（4月）、すぎやまこういち「ドラゴンクエスト」公演（8月）、サントリー・サマー・フェスティバル（8月）、八王子「ドラゴンクエスト」公演（9月）、新宿文化センター公演（10月）、「メトロポリス・クラシックス」公演（11月）、「作曲家の個展」公演（11月）、日本赤十字社チャリティ・コンサート（1月）、新国立劇場オペラ「紫苑物語」（2月）、「港区&サントリーホール Enjoy! Music プロジェクト」公演（2月）都民芸術フェスティバル（3月）といった、多彩な公演に出演した。

加えて、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が主催する演奏会にも出演し

ており、夏休み子供音楽会、響の森（全2回）、Music Program TOKYO（全2回）やプレミアムコンサート（全6回）に出演した。

イ 地方・近郊公演

大和市文化創造拠点シリウス公演（7月）、フェスタサマーミュージア KAWASAKI（8月）、長野市芸術館公演（10月）に出演し、都響をアピールするとともにオーケストラ音楽の一層の浸透と裾野の拡大に貢献した。

II 青少年のための演奏（定款第4条第1項第2号）

（1）音楽鑑賞教室（57回）

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会などと打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音楽まで、プログラム、企画、構成など工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度は都内22区市、神奈川県・千葉県の子私立学校各1校の小中学生等を対象に、各地のホールにて57回実施した。

（2）マエストロ・ビジット（1回）

平成16年度より引き続き実施しており、本年度は音楽監督の大野和士が都立青山高等学校を訪問し、特別授業を行った。大野による指揮体験活動や、オーケストラ部の直接指導など、子供たちとの対話を通じて音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取り組みを行った。

（3）音楽アーティスト交流教室（150回）

都響楽員OB等が小学校を訪問し、楽器の演奏指導を行う事業である。平成17年度から台東区内で実施しており、平成22年度からは対象地域を豊島区にも拡大し、本年度は150回の演奏指導を実施した。

III その他の事業（定款第4条第1項第2、3号及び第2項）

（1）小規模演奏会（108回）

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、平成14年度から小規模アンサンブルを中心にデリバリー形式の演奏会を積極的に実施している。

主に病院や福祉施設にて演奏した「ふれあいミニコンサート」（共催：一般財団法人東京都弘済会）、「音楽の贈りものコンサート」（主催：公益財団法人メトロ文化財団）などのほか、東京都美術館・東京文化会館との連携による、東京都美術館の展覧会企画とコラボレーションした「ART meets MUSIC」（主催：東京都美術

館（公益財団法人東京都歴史文化財団）や、JR 駅構内エキュート上野で開催した「クリスマスステーションコンサート」（主催：JR 東日本リテールネット株式会社）、東京文化会館との共催事業「ティータイムコンサート」など、多くの方々に演奏を楽しんでいただいた。また、三宅村、神津島村、式根島村、新島村、青ヶ島村、御蔵島村、利島村、小笠原村での島しょ公演をはじめ、多摩地域でも多くの公演を実施し活動の幅を広げた。

また、[サラダ音楽祭]では、池袋エリアの公園や商業施設など街なかで気軽に楽しめるミニコンサートを積極的に実施した。

東京都以外の地域へも積極的に出向いており、被災地支援として岩手県野田村、宮城県石巻市などでの演奏会を本年度も実施し好評を得た。

さらに、2020 年に向けて芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を推進するため、羽田空港、KITTE で行われたプロモーションイベントでの演奏を実施した。

(2) 公開ゲネプロ（5 回）

TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロを、プロムナードコンサート、定期演奏会、都響スペシャルにて実施した。その他、依頼公演において 2 回の公開ゲネプロを行った。

(3) 放送・録音（4 回〔20 回〕（〔〕内は同時録音、過年度録音等）

大野和士指揮の新国立劇場オペラ「紫苑物語」の制作ドキュメンタリーおよび公演本編が、NHK BS プレミアム「プレミアムシアター」で放送され反響を呼んだほか、ゲーム「Fate/Grand Order」音楽の CD 用録音や、すぎやまこういち指揮「ドラゴンクエスト」公演のインターネット同時配信など、多くの方に音楽を楽しんでいただく機会を提供した。